

PRESTO™ A80t

20Lのガラス反応容器を
+20 °C から +150 °Cまで加熱運転

目的

このケーススタディはユラボPRESTO™ A80tの加熱能力を
20Lのガラス反応容器でテストしたものです。
ユラボPRESTO™ A80tを1mのメタルチューブ 2本で20Lのガラス反応容器に接続し
+20 °C から +150 °Cまで加熱するようにプログラムされています。



環境

室温	+20 °C
湿度	45%
電源	208 V / 60 Hz

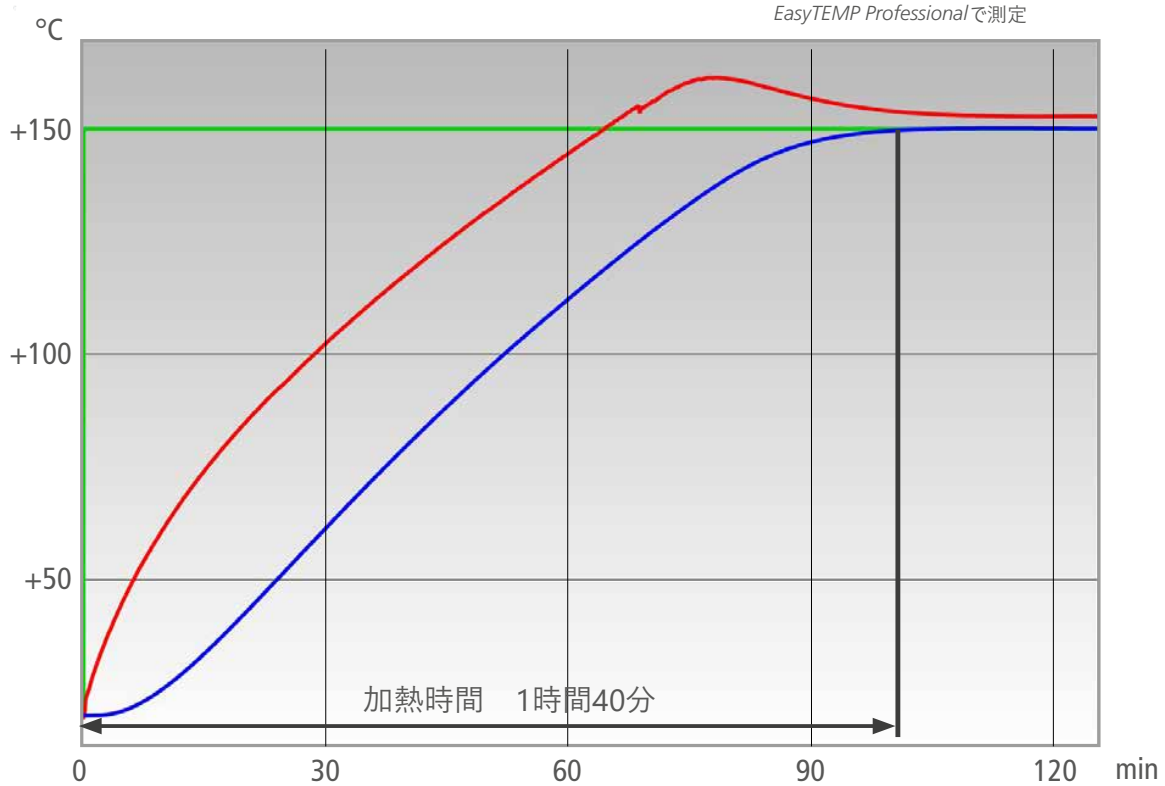
テスト条件

ユラボ装置	PRESTO™ A80t
冷却能力	+20 °C 1.2 kW 0 °C 1.2 kW -20 °C 1.1 kW
加熱能力	3.4 kW
バンドリミット	有り
吐出圧	0.5 bar
循環液	ユラボサーマル HL80
反応容器	20Lガラス反応容器 (Asahi) を 19LのサーマルHL80で満たしています
ジャケット容量	7 L
温度制御	外部温度制御 (ICC)



テスト結果

PRESTO™ A80tの加熱プロセスは+20 °C から +150°Cまで1時間40分でオーバーシュートすることなく到達しました。



- 設定温度
- 反応容器内温度
- ジャケット温度

情報

追加のM+Rアダプターを使用すると循環液の温度表示、温度記録することができます。



情報

容器の保護：
“バンドリミット”機能（上記参照）で、容器内部温度とジャケットの温度差を制限して設定することができます。

Profile of reactor

